

兄弟たちに別れを告げて

2023年2月19日

使徒の働き 18章12～22節

序：コリントで ①アキラとプリスキラに出会う

②天幕作りで自給自活

③ユダヤ人の会堂で宣教（論じ、承服）

④シラスとテモテが下ってきて合流 パウロ宣教活動に専念

⑤ユダヤ人たちの反抗・暴言 彼ら⇒異邦人へ行くと宣言

⑥会堂の隣に移る……会堂司一家の救い、多くのコリント人の回心

⑦恐れるパウロに神の慰め・激励

⑧1年半腰を据えて伝道

I. パウロ告訴される（攻撃 ×危害）

(1)ユダヤ人たちのパウロへの反感・反抗に因る裁判申し立て

(2)責任者＝ローマ皇帝の任命によって、アカイア地方の総督だったガリオ
裁決



哲人セネカの兄、A.D.51年ころ

コリントに総督は居住

(3)訴状 ＝パウロがローマ政府の公認の宗教であるユダヤ教に背いた教えを
言い広めている：それはローマ法に対して違反
パウロの宣教を禁じるよう要求

(4)ガリオの裁決＝パウロが一言も弁明する前に、ユダヤ人の要求を却下

①パウロが弁明する前に

②告訴の内容はとり上げるに値しない

∴刑法でさばくことができる不正事件や悪質な犯罪ではない

③ユダヤ教内部の内輪もめ（用語や解釈の違いから）

∴自分たちで解決すべし

④異邦人ゆえ、宗教的な問題を巡る裁判など係わりたくない

⑤訴え出たユダヤ人たちを法定から追い出した

(5)ユダヤ人たちは、その腹いせに会堂司ソステネを捕らえて法廷の前で殴った

☞会堂司クリスポの後任 キリスト教も同調者？



家族ぐるみでキリスト教に改宗

(6)ガリオは目の前で起きたこの沙汰に、無視を決め込み、いっさい係わらなかった

★有力者である総督の裁決の結果は、キリスト教の伝道においては益・プラス
∴これから十余年後、キリスト教弾圧・迫害がローマ皇帝により、大々的に展開
されるようになるまでの間、キリストの福音宣教は、ローマ帝国の法に違反し
たものではないというお墨つき。擁護とは言えないが容認、前例となった

II. 第二次伝道旅行からの帰還

(1)ヨーロッパに福音がもたらされたきっかけはマケドニア人の幻
マケドニア（ギリシャ北部）のピリピ、テサロニケ、ベレヤ ～
アカイア（ギリシャ南部）のアテネ、コリント

(2)コリントからシリア（アンティオキア）に向かう

①プリスキラとアキラが同行（同業者 ⇨ 同労者）
信徒伝道者

②ケンクレアで、パウロは誓願明けの儀式
伸ばしたままの髪を切って、神の前に焼いてささげるナジル人の儀式
福音に反さない限り、ユダヤ人として実践

③エペソに寄港

プリスキラとアキラをエペソに残す
ユダヤ人の会堂で宣教（コリントのユダヤ人と違って好意的、歓迎）
第三次伝道旅行での中心的宣教地がエペソ（下見を兼ねて？）
もっと長く留まるよう依頼されたが、出発（再会の望みも言及）

④カイザリアに着き、エルサレムに上り、教会にあいさつ

⑤シリアのアンティオキア教会に帰還（出発点・帰って来るところ）

III. 結び

(1)権力と影響力を持つ為政者も、キリストの教会のため、神のご計画の推進・成就の
ため、主が動かし用いられる cf. 宗教法人取得時の担当者

(2)福音の本質を守るためには戦い続けたパウロは、実践面においては現実的に知恵と
配慮をもって行動した cf. 日本の文化・伝統行事とキリスト者
妥協ではなく、柔軟に（ユダヤ人にも、異法人にも）

(3)出会いと別れ：感情に流されすぎず、友情・愛情を育みつつ、互いに成長して
主とみことばと教会に仕えていく祝福